

平成 30 年 豊岡市賀詞交換会 市長新年あいさつ

明けましておめでとうございます。

おかげさまで豊岡は概ね平穏無事。こうやってお互い顔を合わせて新年の賀詞交換ができることをとても嬉しく思います。今年1年、皆さんと力を合わせて、豊岡がさらに素晴らしいまちとなるように、お互いに努力をしていきたいと思えます。

公衆衛生を説明するこんな比喻があります。

大きな川のそばで座っていると、上流から流されてくる人がいる。「助けてくれ！」と叫んでいる。そこで自分も含め、みんなで必死になって川の中に入ってその人を助け上げる。そうするとまた、別の人が「助けてくれ！」と叫びながら流されてくる。また助ける。また流されてくる。それを延々と繰り返している。しかも、どんどんひどくなるような気がする。いったい誰が、上流からこの人たちを川に落としているのか。あるいは、この多くの人々は、どのようにして上流で川に落ちているのか。そのことに目を向けなければならない。それが公衆衛生という考え方だ、という話でありました。

私たちのまちづくりも同じだろうと思えます。日々、本当にたくさんの課題が生じます。コミュニティは崩壊しかけている。バスには乗り手が無くなって、どんどん廃止になっていく。社会保障費はどんどん上がっていく。いったい誰がこのような人々を上流で川に投げ込んでいるのか。そのことに目を向ける必要があります。

もちろん、それをゼロにすることはできませんので、現に流されてくる人々を助けるということに必死になるのは当然のことです。医療体制の整備もしなければなりません。介護保険、高齢者福祉、障害者福祉、あるいは様々な経済的な対応もそうです。しかし同時に、その根元がどこにあるのかということに目を向けて、そこに手を付けなければ事態は悪くなるばかりである。その両方が大切なのだと思えます。

そして現在、その上流から人々を川に落としていく、その最大の犯人が人口減少です。そして、その人口減少を和らげるために打ち出したのが、豊岡市地方創生総合戦略です。もちろん、上流で人々を川に落とすのは、人口減少だけ

ではありません。地球温暖化のような地球規模の環境問題は、様々な自然災害を引き起こしています。AIはこれからどんどん導入が進み、多くの人々が職を失い、人間の果たす役割がどんどん変わっていく可能性があります。そういった上流の出来事に、私たちは日々の対応に併せて、きちんとした手当てをしていく必要がある。人口減少だけでなく、地球温暖化対策や生物多様性の保全、AIへの対応なども含めて手当てをしたのが、豊岡市基本構想です。

基本構想、地方創生総合戦略のどちらも、その旗印は、「小さな世界都市を創る」です。人口規模は小さくても、豊岡というローカルにしっかり根を張りながら世界で輝く。そのことを自分たちの誇りに繋げ、「小さくてもいいのだ」という堂々としたまちを創っていこうという考え方です。私自身は、「小さな世界都市を創る」と言い始めてからもう20年以上経ちますが、つい最近までそれを信じておられる方はほとんどおられませんでした。しかし、その可能性がはっきりと見えてきました。

城崎温泉を中心に、外国人宿泊客数は急増しています。昨年1年間の数字はまだ手元に届いていませんが、おそらく5万人前後にまで達しているものと思います。世界各国まんべんなく、そのほとんどが個人客でお越しになっています。ちなみに一昨年は、豊岡市全体で4万4千人でした。5年間で約40倍に増えてきました。

コウノトリは、私たちにとって普通のありふれた存在になってきました。もう市の将来課題として挙げなくてもいいのではないかと、という意見まで出てくるようになりました。しかし、世界の人々は驚いています。これまでに私や職員が講演のために招かれた国々は、ドイツ、フランス、中国、香港、韓国、台湾、イスラエル、インドネシア、そしてブルネイ。これからさらに増えていくだろうと思います。世界最先端の取組みに、世界の人々は驚き、豊岡に対する賞讃を送り始めています。

城崎国際アートセンターにも世界中から一流のアーティストが続々とやってくるようになりました。来年度の滞在制作を募集したところ、世界25カ国、94の団体から応募がありました。ダンスをする方々、あるいは演劇をする方々で、このうち53の団体が海外からです。この分野において今や豊岡は、東京を介さずにダイレクトに世界の人々と結ばれるようになりました。昨年の永楽館歌舞

伎には、日系の方でしたが、ウィーンからのお客様がありました。

コウノトリ育むお米の輸出も始まりました。ニューヨーク、そして昨年5月からは香港への輸出が始まっています。1キログラム1,250円ですが、非常によく売れています。

市内の企業でもそういった取組みが進んできました。例えば、香港やニューヨークで販売を始めたハンガー製造の企業もあります。今、世界中から問い合わせが殺到しているそうです。鞆のデザインで世界最高峰の賞を取るデザイナーも出てきました。この方は、映画の中で用いられたファッションの中で、最も優れたデザインをした4人を選ぶハリウッドの賞に選ばれ、昨年ハリウッドに招かれ、レッドカーペットの上を歩いてこられました。世界最高峰のモーターバイクのホイールを製造し、ヨーロッパから豊岡にわざわざ買いに来られる、そういった企業もあります。これらもローカル&グローバル、小さくても世界で輝いていく、その大きな例だと思います。

もちろん課題や欠点のたくさんある地域だと思います。しかし、世界で通用するものがある。そのことに気付かされたこの数年間だったと思います。みんなで力を合わせて、小さくてもいいのだ、世界で輝いていくのだ、そんなまちを皆さんと創り上げていきたいと思います。

さらに、次の球についても着々と準備が進められています。専門職大学の検討です。こちらは兵庫県の方で検討がなされています。平田オリザさんを座長に専門家の検討会が開かれており、文化と観光の親和性に着目した文化マネジメントと観光マネジメントの二つを系列とした4年制の高等教育機関を豊岡に置くことを前提に、具体的にどういったカリキュラムを組むのか、その検討作業が進んでいるところです。おそらく新年度は、県の組織内にしかるべき準備室のような部署が設置され、早ければ2020年、遅くとも2021年4月に開学をするという前提で、現在作業が進んでいるところです。もちろん但馬の生徒たちを集めるだけではなく、突き抜けたものにしたい。そして、世界から留学生を集める。そういう姿勢の下で検討が進んでいるところです。

また、座長の平田オリザさんは、日本を代表する劇作家で、世界的に活躍される方ですが、昨年、豊岡へ移住することを表明されました。ご自身とご家族が、おそらく来年になろうかと思いますが、豊岡に移り住まれます。同時に、

ご自身が主宰され、日本を代表する劇団である「青年団」の本拠を日高町江原に移すことも表明をされました。本拠は豊岡に移し、今ある東京は支店にする、というものです。百数十人の劇団員がおられる劇団ですが、多くはご家族のご事情により東京を離れられないとのことですが、若い劇団員の方々、おそらく10～20名の方々が、家族とともに豊岡に移り住んでこられるだろうと思います。

平田さんご自身も、日高町江原に小劇場と稽古場を作りたいということで、現在その場所の選定作業に入っておられます。こちらも、できれば2019年度には整備を終え、2019年度中か2020年度には、平田さんも劇団も、あるいは劇団員もこの豊岡に移ってくるということになろうかと思います。2020年、あるいは2021年頃に今申しあげたものが活動を始めます。

さらに、平田さんは、2022年にはこの豊岡を拠点にして世界的な演劇祭を始めたいとおっしゃっています。3年で日本一に、5年でアジア有数に、10年で世界トップクラスの演劇祭に育て上げる、と公言をされています。もちろん、まだこれは可能性でしかありませんが、しかしながら、この片田舎だと思っていた、何もないと思っていたこの豊岡が、実は世界で輝くチャンスは今、目の前にしています。みんなで力を合わせてそれを着実に、確実に前に進めて、そして、小さくてもいいのだ、という堂々としたまちを皆さんと創り上げていきたいと思います。

毎年申しあげますが、課題は本当にたくさんあります。平成33年から合併特例は切れ、豊岡市の財政は厳しい冬の時代に入ります。合併前に各市町が作ってきた施設もたくさんあります。今後10年間だけで、大規模改修や長寿命化、改築をしなければいけない施設は、小中学校だけで合わせて17校、さらに、市民会館、日高庁舎、出石庁舎、但東庁舎、消防本部、消防出石分署、塩津住宅、栄町住宅、鳥居住宅など、様々な施設をこの厳しい中で何とか整備をしていく必要があります。とすると、私たちは辛抱すべきものは辛抱して、絶対に守らなければならないものを何としても守り抜く、そんな厳しい姿勢で厳しい時代を切り拓いていく必要があります。これもみんなで力を合わせれば必ずできる、そう信じています。

今年1年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを心から祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。ありがとうございました。